



細胞を培養するため、頭から足の先まで無塵衣でしっかり覆い、いざ、細胞調整室へ！

先端医療に挑む！ 未来開拓センター

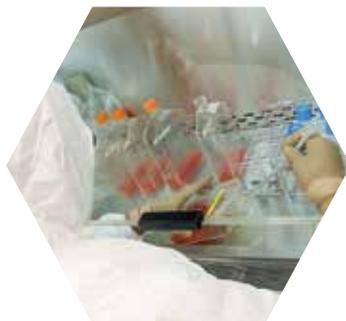
私たちの研究を、待っている人がいる



本人から採取した細胞を最新機器で解析



培養準備室で入念に準備



無菌空間で慎重に細胞を培養



細胞調整室は管理室からモニタリング



NKT細胞を鼻から投与！

新しい薬や治療法を開発して患者さんに届けたい！



未来開拓センター長
おかもと よしたか
岡本 美孝

どんなに力を尽くしても、残念ながら、現代の医療では治すことができない難病があります。しかし、将来は治すことができるようにしたい。そのために新しい治療法の研究開発と実用化を目指す拠点として2008年、「未来開拓センター」を開設しました。

これまで行ってきた研究開発の一部は、「先進医療」「高度医療」として厚生労働省から認可され、保険診療との併用が認められていますので、患者さんの費用負担も軽減されます。

その一つに、「NKT細胞による肺がん・頭頸部がんへの免疫療法」があります。「NKT細胞

とは、活性化するとがん細胞に対して強い効果を示す免疫細胞で、この力を強くしてがんの再発を抑えるという新しい治療法に取り組んでいます。

現在、外科手術、抗がん剤治療、放射線治療を受けている患者さんに、担当医師からNKT細胞療法について説明し、希望した患者さんに治療を行っています。

未来開拓センターでは、これからも研究成果をわかりやすくお伝えし、より多くの患者さんの治療に還元できるよう、スタッフ一丸となって研究に邁進してまいります。

NKT細胞の投与を受けた患者さん(50代男性)に聞きました

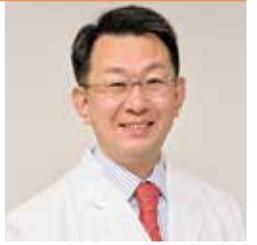
「治療を受けるチャンスがあるなら、ぜひチャレンジしたい」と思い、担当医師から説明を聞いて、躊躇なく治療を決意しました。うまく適合し、1回目の治療を終えたところです。効果が出ることを期待しています。

ポリファーマシー(多剤併用)を見直そう!

お薬を必要以上に飲んでいませんか?

治療のために必要とされる「薬」ですが、必要以上にたくさんの種類の薬を服用すると逆に体調を崩す原因となってしまうことがあり、注意が必要です。当院でも対策を進めていますが、患者さんにも気をつけていただきたいポイントがあります。

高齢者医療センター
センター長
よこて こうたろう
横手 幸太郎



「ポリファーマシー」って何?

最近、医療現場での問題として取り上げられることが多い「ポリファーマシー(多剤併用)」。ポリは「たくさん」、ファーマシーは「薬剤」という意味で、「必要以上にたくさんの種類の薬を服用している状態」をいいます。複数の病気を抱えている高齢者は、いろいろな診療科や病院にかかることにより、ポリファーマシーに陥りやすくなっています。

たくさんの種類の薬を飲むリスクに注意!

必要以上にたくさんの種類の薬を飲むと、次のような問題が起こりやすくなります。

- ①薬による副作用が起こりやすくなる
- ②どの薬を飲んだかわからなくなり、薬の飲み間違いが起こりやすくなる
- ③それぞれの薬の効能や副作用などを覚えきれなくなる

こうした問題が起きないように、千葉大学病院で

は医療スタッフが協力して入院患者さんの処方内容を見直すとともに、さまざまな職種がチームを組んで病棟を回診する取り組みを始めています。

その一方で、患者さん自身にもお薬手帳を1冊にまとめるなど、自己管理を行っていただく必要があります。

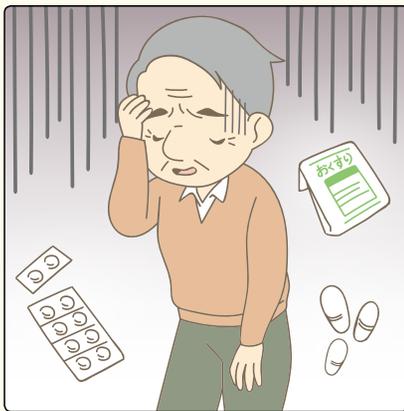
それぞれの患者さんの状態に合った処方内容となるように、医療者と患者さんの双方が、常に意識していくことが重要です。

実際に行った改善例

13種類、23個の薬を飲んでいたAさんの場合

4か所の診療科や病院にかかっていたため、血圧を下げる作用のある薬が複数処方されていました。このため、血圧が必要以上に低下してフラフラしていました。

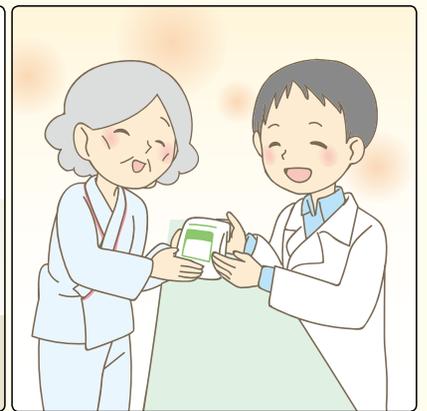
そこで、医師と薬剤師が相談し、処方内容を見直して薬の種類や量を減らしたところ、症状が治まりました。



薬の飲み間違いが多い78歳のBさんの場合

入院時、薬剤師が薬の確認を行った際、たくさんの薬が飲まれずに残っており、飲み間違いも多いことがわかりました。医療スタッフが協力して薬の内容を見直し、飲むタイミングを調整したり、調剤を一包装したりすることで、飲み間違いが少なくなりました。

し、飲むタイミングを調整したり、調剤を一包装したりすることで、飲み間違いが少なくなりました。



ニュース & トピックス

NEWS & TOPICS

ドラマ「ドクターX」の撮影が千葉大学病院で行われました!

「私、失敗しないので」でおなじみのドラマ「ドクターX～外科医・大門未知子～」の撮影が当院で行われました。2014年夏に新築した外来診療棟の玄関ロビーを中心に院内各所がドラマに登場します。毎週木曜日21時よりテレビ朝日系で放送中です。



レギュラーのキャストが大集合!

アメニティ棟が2017年春、オープン!

当院の正面玄関前に新しくアメニティ棟が誕生します。2階建ての建物には、健康に配慮した旬のメニューを提供するレストランや、フードコートなどがオープン予定です。患者さんの「第2の待合室」となるよう、利便性と快適性の向上をめざします。ぜひご利用ください。



木目ベースの店内には癒しの空間が広がります

インターネットで不眠症治療臨床試験の参加者を募集中!

不眠症を、薬を使わず、「認知行動療法」で治療するプログラムを清水栄司教授(精神神経科)が開発。インターネットで睡眠日誌を送り、考え方や行動を見直して改善を図ります。現在、臨床試験を実施中です。お悩みの方は、ぜひご参加ください。✉ chibasleep@yahoo.co.jp



「自宅でできるので手軽です」と清水教授

千葉大学病院が取り組む ポリファーマシー対策

患者さんの飲むお薬が一人ひとりに合った内容となるよう、医療スタッフが協力しています。

入院患者さんには、主治医を中心とした医師が処方内容を検討する以外に、病棟担当の薬剤師が患者さんの状態や検査値などを確認しながらより良い処方を医師に提案しています。

特に、入院されている高齢患者さんについては高齢者医療センターの医療チームが病棟を回り、処方内容を見直す取り組みを行っています。高齢者特有のフレイル（身体機能の低下）も併せて確認しているため、「ポリファーマシー・フレイル回診」と呼んでいます。



高齢者医療センター 医療スタッフ。
(左から)看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、理学療法士、医師

ポリファーマシー・フレイル回診

- 必要以上にたくさんの種類の薬を内服していないか
- 高齢者に注意が必要な薬の使用はないか
- 身体機能が低下しないようリハビリすることが必要か

※フレイルとは：健康な状態と介護が必要な状態(日常生活でサポートが必要)の間にある状態で、早めに発見して対策をとることで、元の健康な状態に戻れることが期待できます。



患者さん自身が取り組む ポリファーマシー対策

1 お薬手帳を1冊に まとめましょう

複数の診療科や病院を受診している場合、同じ効果のお薬が重複したり、飲み合わせの悪いお薬が処方されたりすることがあります。そうしたリスクを避けるために、お薬手帳は1冊にまとめましょう。



2 かかりつけ薬局をつくりましょう

薬の専門家である薬剤師から、適切かつ継続的にアドバイスをしてもらうため、かかりつけ薬局をつくりましょう。



3 医師や薬局に相談しましょう

薬が多いと感じた場合には、遠慮せず医師や薬剤師、お近くの薬局に相談しましょう。くれぐれも、自己判断はしないでください。

薬剤師からのアドバイス

お薬の内容を見直すことで、お薬の数を減らしたり、管理しやすい飲み方に改善したりできます。薬局や医療機関に相談してみましょう。お薬を飲むことをご自分の判断でやめると、症状が悪化したり、治療に影響が出たりする恐れがありますので、自己判断でのお薬の調節はやめましょう。



薬剤部
部長
いしい いっこ
石井 伊都子

患者さんの のための



Q 二日酔いは予防できますか？ 改善策も教えてください。

A 頭がガンガン、吐き気や眠気も…お酒を飲んだ翌朝、血中アルコール濃度が低くなった状態でもそんな症状が現れてしまうのが「二日酔い」です。徐々に回復しますが、無理に出勤しても仕事の能率が悪く、社会的な損失も少なくないのでは？お酒は飲みたいけど、二日

酔いはイヤ…という人に、ぜひ心がけていただきたいことがあります。

まず、「空腹で飲まない」「ゆっくり飲む」

ポイントは空腹時の飲酒を避け、ゆっくり飲むことです。日本酒1合、ビール500mlのアルコールを処理するためには、体重60Kgの人の肝臓で3時間以上かかります。飲む前に何か食べて、栄養分や水分をとりながら、ゆっくり飲みましょう。

濃いお酒は「薄めて飲む」

濃いお酒は薄めて飲むようにしましょう。また、お酒には、アルコール以外に、お酒を作る間に生成されるメタノールなど有害な成分がわずかに含まれています。実は、これも二日酔いの原因になります。バーボンやブランデーなど色の濃い蒸留酒に多く含まれています。市販のサプリや薬も多数ありますが、決定的なものはなく、「飲み過ぎない」ことに尽きます。

二日酔いでサウナは禁物…

水分補給や休養、そして低血糖などを改善するためにカロリー補給も大切です。迎え酒は厳禁、サウナ入浴も避けたほうがよいでしょう。タバコは一服でも悪影響を与えますが、少量のアルコールは動脈硬化性疾患の死亡率を下げるなどの効果が知られています。節度ある適度な飲酒を心がけてください。



マススペクトロメトリー検査診断学・遺伝子診療部の
むらふみ お
特任教授 野村 文夫

映像と音楽でリラックス! 不安が和らぐ最新MRI検査

強い磁場と電波を使って体内の断層を撮影するMRI検査。脳・腰・膝などの画像診断に有効で、X線被ばくがなく安心して受けられるという利点がある反面、圧迫感と騒音が課題となっていました。それを和らげるために、当院が新たに導入したシステムとは一。

「この部屋は検査室なの?」 という驚き

MRI検査室に入るとき、「どんな検査をされるのだろうか?」と不安を感じる患者さんは多いと思います。特に、狭い場所が苦手な方は、トンネルのような圧迫感のある空間に、「狭い・暗い・怖い」と恐怖心さえ感じることでしょう。

そうした不安や緊張が検査時間を長引かせたり、不意の挙動による再撮影が生じたり、患者さんの負担を増やすことがあります。そこで私たち放射線部は、少

しでも患者さんの緊張や不安を和らげ、ストレスなくスムーズに検査を受けていただけるよう、「Ambient Experience (アンビエント エクスぺリエンス)」というシステムを新たに導入しました。

検査室の天井と壁面を特殊な照明で彩り、部屋全体の色調を変化させ、さらに壁面には森林などの風景やアニメーションを投影しています。検査室の扉を開けた瞬間、あたかも別世界に飛び込んだような気持ちになり、リラックスして検査を受けることができます。MRI検査装置の中に入ってから、映像と音楽を鑑賞しながら、終始、安定した状態で検査が可能です。▶

放射線部
副部長・
診療放射線技師長
ますだ よしただ
榊田 喜正



千葉市出身。幼稚園から大学院まで、学校はすべて千葉市内に通学。1986年から診療放射線技師として千葉大学病院に勤務。2010年から現職。以前から飛行機が好きで、時間を見つけて成田へ出向き、飛行機を撮影。また、約1年前からコーヒーにハマっており、「豆、挽き方、フィルター、温度、カップなどをいろいろと変えておいしさを追求しています」

最先端の検査を 「患者さんに優しい」環境で

あくまでも私たちの役割は、しっかりとした検査画像を取得することですので、MRI検査の装置そのものも、高性能で最先端の装置を導入しています。加えて、より快適に安定した状態で検査を受けていただくことが、検査の質の向上、ひいては本来の目的である質の高い医療の提供につながると考えています。

患者さんからは、「検査室には無機質で冷たい印象があり、入る時にドキドキしてしまうのですが、今回は大丈夫でした」「狭いところが苦手なので、MRI検査を避けてきましたが、この環境なら受けることができます」などの声をいただいています。

本システムを3部屋(MRI検査室:2、脳血管検査室:1)に導入しているのは、世界でもまれです。今後、新中央診療棟の新築による検査室の一新も予定されており、より一層、質の高い検査と患者さんに優しい検査環境の提供に努めてまいります。

患者さんが不安や緊張でドキドキせず にすむ検査空間に

アンビエント エクスぺリエンス インボア ソリューション

Ambient Experience [In-bore solution] のあるMRI検査室



映像には10のテーマがあり、患者さんが自由に選ぶことができます



MRIの狭い空間でも映像が楽しめるよう、鏡が設置され、そこに壁面モニターの映像が投影されます。70インチという最大級の大きさのモニターを導入しています



小児科では、お子さんが検査の装置に恐怖心を抱かないよう、事前にどんな検査を受けるのか説明するための模型を設置しています

私 の オ ト ク シ な フ イ



「美しい日本語」で患者さんをお迎えます!

外来クラーク
たかはし かなえ
高橋 佳菜恵さん

好きこそものの上手なれ

学生時代から「漢字」が得意で、力試しのつもりで漢字検定を受けてみようと思立ち、勉強するようになりました。最近はパソコンやスマートフォンなどが普及し、手で文字を書くことも減りましたが、常用漢字だけでなく四字熟語や故事ことわざ、言葉の遣い方なども学ぶ良い機会となっています。

病院では、外来の診療科で窓口対応をしています。直接的な医療行為ではありませんが、患者さんの疑問や要望に対応することで医師や看護師の負担を減らし、信頼関係をつくることのできる、やりがいと責任のある、とても素敵な仕事です。患者さんに帰り際「ありがとう」と言ってくれれば、「この仕事をやっていてよかったな」と思います。

今後もより一層、美しい日本語の読み書き、言葉遣いを心がけてまいります。

働く 現場日記

患者さんの悩み解決に向け 一緒に考えています

精神神経科 ソーシャルワーカー おの まりなさん

入院あるいは外来通院される患者さんは、「入院費はいくらかかるのか」「退院後の生活や仕事・通学は元通りにできるのか」など、じつに様々な不安や悩みを抱えています。私たちソーシャルワーカーは、患者さんやご家族が抱える経済的・心理的・社会的な悩みをお聞きし、解決に向けて一緒に考え、サポートしています。就労支援が必要な患者さんには支援先をご案内し、日中一人で家にいることが多い患者さんにはデイケアのような活動場所をご紹介しますなど、一人ひとりに合ったアドバイスをしています。私たちに相談くださったことで、患者さんの生活が少しでも改善されると嬉しいです。今後も患者さんの悩みや希望を真摯に受け止めて、解決を支援していきたいと思っています。

医療や福祉に関する
ことでお困りの場合は
ご相談ください

あとがき

実りの秋となつてまいりました。当院は「人間の尊厳と先進医療の調和を目指し、臨床医学の発展と次世代を担う医療人の育成に努める」ことを理念とし、基本方針の一つとして「人間性豊かな優れた医療人の育成」を掲げています。当院では多くの若い医療人が熟練した指導者のもとで研鑽を積んでいます。彼らはやがて、秋の実りのように、当院の目指す医療を提供する柱となつていきます。当院の医療人育成について今後ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。 総合医療教育研修センター 伊藤 彰一

『いのちなハーモニー』47号 発行日 2016年10月17日
発行 千葉大学医学部附属病院
〒260-8677 千葉県千葉市中央区玄鼻1-8-1
TEL 043-222-7171(代表) <http://www.ho.chiba-u.ac.jp/>
※ホームページでバックナンバーがご覧いただけます